

令和7年度 愛媛県立松山東高等学校通信制課程 後期入学式式辞

ようやく秋の訪れが実感され始めた10月の佳き日に、令和7年度愛媛県立松山東高等学校通信制課程の入学式を挙げていただけますことは、私たちにとって、大きな喜びでございます。

ただ今、入学を許可いたしました新入生の皆さん、御入学、おめでとうございます。本校では、先だつての9月末に前期卒業式が行われ、27名の卒業生を送り出しました。少し寂しさを感じていたところ、本日、47名の皆さんをお迎えすることができ、心からうれしく思います。

今、皆さんの心の中では、通信制での高校生活、通教生活がどのようなものになるのか、期待と不安が入り混じっていることと思います。中学校での生活やこれまで通っていた高校生活、社会生活の中で、人間関係の苦勞、健康面や学習に関する不安など、いろいろな困難を抱え、あるいはそれを乗り越えて、あるいは、乗り越えようとして、今日の入学を迎えている人もいるのではないかと思います。本校生徒、通教生たちも同じような思いを抱えて入学し、自分のペースで、そして、仲間たちや先生方と心を通わせ、支え合いながら、スクーリングやレポートに取り組み、自分の可能性に向かって歩みを進めています。「通信制は、とてもよい環境だと思う。」といった声が、生徒たちから寄せられています。

この東高通信制は、昭和23年から78年間の長きにわたって、続いてきました。その間、通教の歌にある「ひとりじゃないんだ がんばろう」の言葉が、通教生の心の支えになっています。松山東高通信制は、来年の4月から、北条清新高校として、新しくスタートを切ることになります。松山東高校通信制の入学式は、今日が最後になりますが、「ひとりじゃないんだ がんばろう」この言葉、この精神は、新しい学校に受け継がれていきます。

通教の歌を作詞した大原和寿さんは、昭和37年、自分の子どもさんが生まれたことをきっかけに、「新しい命のために胸を張れることをやってやろう」と思い、33歳で本校に入学されました。「ひとりじゃないんだ がんばろう」は、レポートやスクーリングと、仕事との両立で頑張っていた大原さんの、自分への励まし、級友への励ましの言葉です。

勉強や人間関係づくりは、思いどおりにならないことも多いと思います。そのようなとき、悩みながらも頑張っている自分を認めてあげてほしいし、周りにも自分と同じような思いをしているのだと気付いて、励まし合ってほしい。皆さんは決して一人ではありません。

保護者の皆様、お子様の御入学、おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。私たち教職員一同は、本日からお子様をお預かりし、自分の可能性に向かって歩みを進めていけるよう、精一杯、努めてまいります。本校の教育活動に対しまして御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新入生の皆さん、皆さん一人一人が、新しい友人、よい仲間や先生方との出会いに恵まれ、豊かに成長されることを期待して、式辞といたします。

令和7年10月5日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史